

# 第8章

## ペルー

## 1. ペルーの概要

### 1.1) 一般事情

1. 面積 約129万平方キロメートル(日本の約3.4倍)
2. 人口 約3,115万人(2015年1月推定値、ペルー統計情報庁)
3. 首都 リマ(Lima)
4. 民族 先住民45%、混血37%、欧州系15%、その他3%
5. 言語 スペイン語(他にケチュア語、アイマラ語等)
6. 宗教 国民の大多数はカトリック教

### 1.2) 政治・経済

1. 政体 立憲共和制
2. 元首 大統領(ペドロ・パブロ・クチンスキー)
3. 議会 一院制(130人)
4. 政府
  - (1) 首相 フェルナンド・サバラ
  - (2) 外相 リカルド・ルナ
5. 一人当たりGNI  
6,200ドル(2015年、世銀)

### 1.3) 教育制度等

1. 担当行政機関 教育省(Ministerio de Educación)
2. 学校制度 6・5・5制
3. 義務教育期間 6歳～16歳(小学1年～中学5年)
4. 学校年度 3月1日～2月28日
5. 学期制 4学期制
6. 授業料 国立は無料。
7. 成人の識字率 94%
8. 初期教育純就学率 96%

### 1.4) 日本との関係

- ▶ 1873年 外交関係樹立
- ▶ 1899年 契約移民開始(～1923年)
- ▶ 1952年 外交関係再開
- ▶ 2012年 経済連携協定(2011年5月署名、2012年3月発効)

## 2. 日本語教育機関分布状況



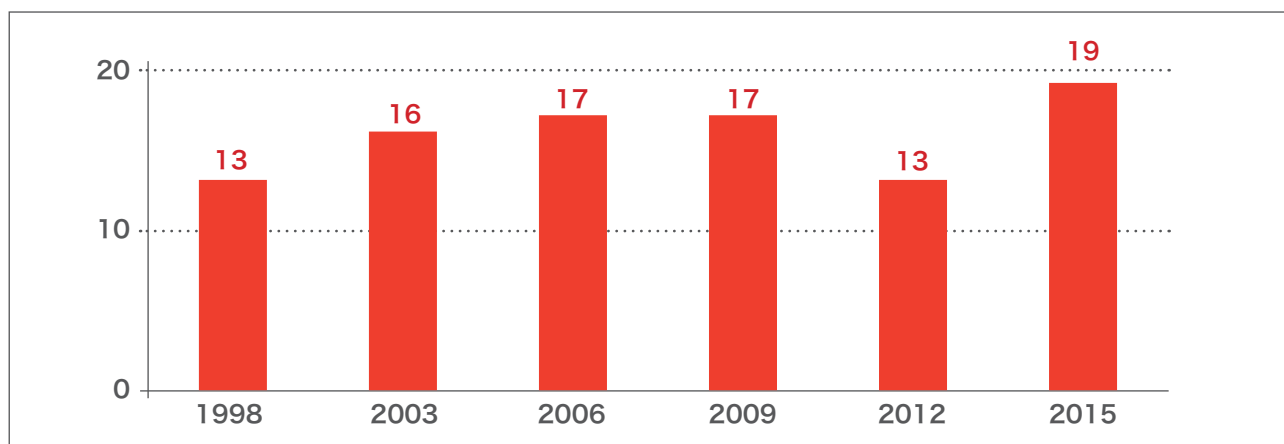
[http://d-maps.com/carte.php?num\\_car=15158&lang=en](http://d-maps.com/carte.php?num_car=15158&lang=en)

参考：APJ2016年調査資料

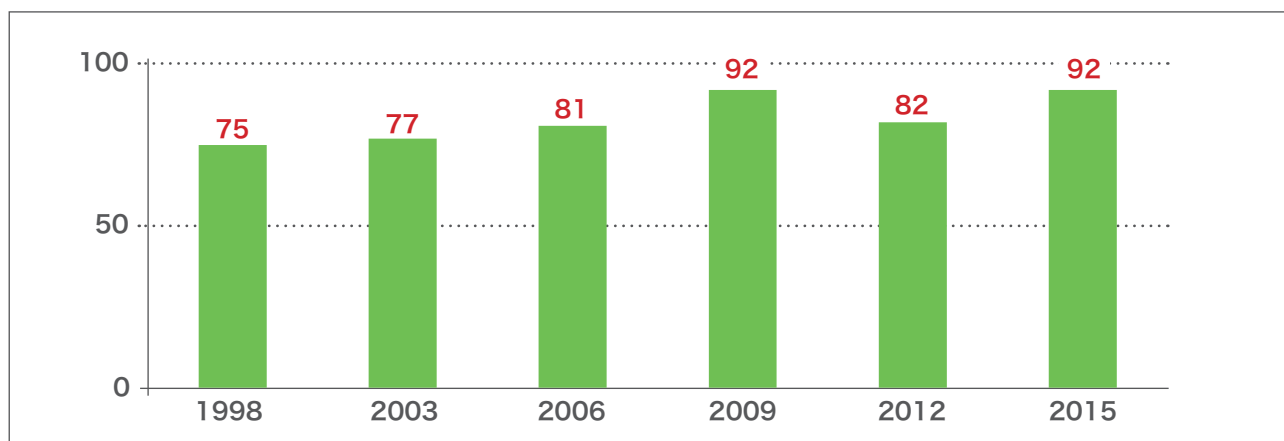
### 3. 日本語教育事情

#### 3.1) 基本情報

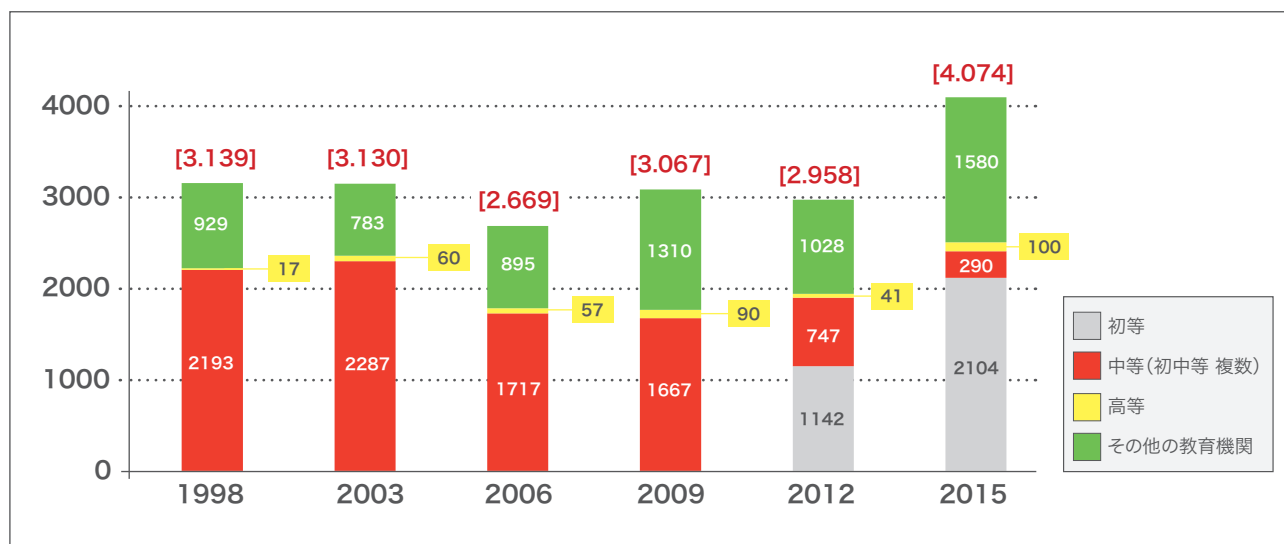
##### 3.1.1) 機関数(1998年～2015年)



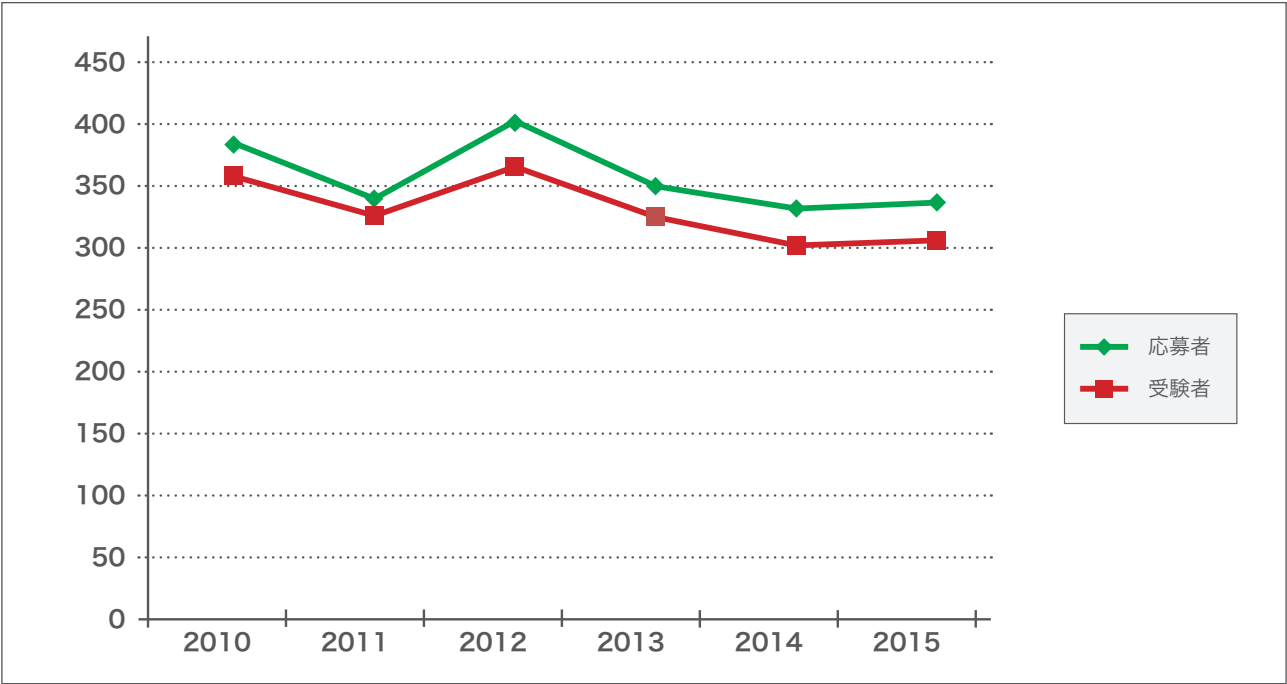
##### 3.1.2) 教師数(1998年～2015年)



##### 3.1.3) 教育段階別学習者数(1998年～2015年)



### 3.1.4) 日本語能力試験応募者数・受験者数(2010年～2015年)



|     | 2010年 | 2011年 | 2012年 | 2013年 | 2014年 | 2015年 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 応募者 | 384   | 336   | 405   | 348   | 332   | 336   |
| 受験者 | 328   | 320   | 367   | 319   | 299   | 302   |

▶ 実施都市： リマ(開始年:1989年)

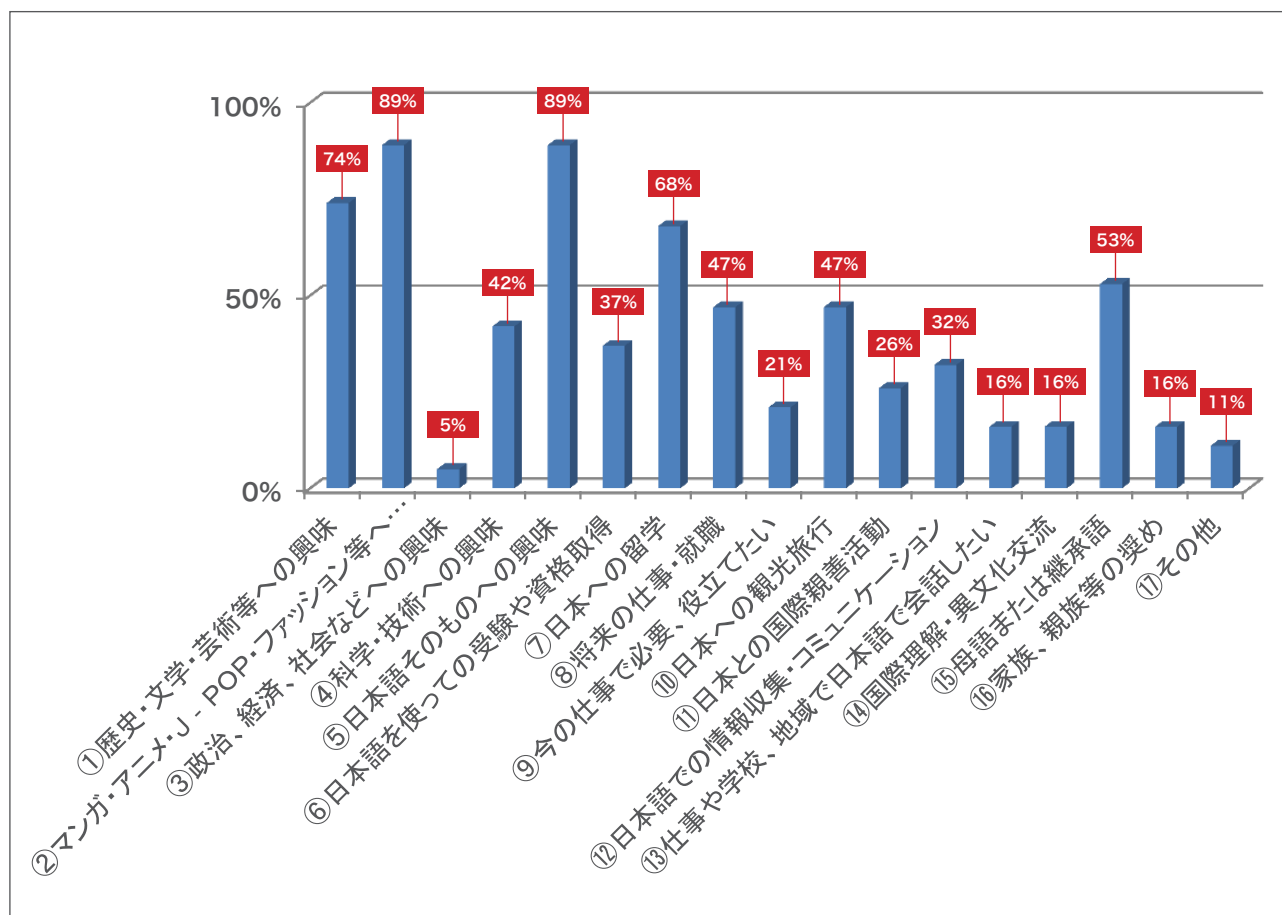
▶ 時期： 12月

▶ 実施機関： ペルー日系人協会

### 2015年 JLPTレベル別受験者数

| レベル | N1          | N2           | N3           | N4           | N5            | 合計   |
|-----|-------------|--------------|--------------|--------------|---------------|------|
| 人数  | 11人<br>(4%) | 30人<br>(10%) | 66人<br>(22%) | 80人<br>(26%) | 115人<br>(38%) | 302人 |

### 3.1.5) 日本語学習の目的・理由(2015年)



### 3.1.6) 日本語教育実施状況(2015年)

| 項目                                 | スケール          | 機関数 | 割合  |
|------------------------------------|---------------|-----|-----|
| A<br>学習者数に対する教師の数                  | 多い            | 0   | 0%  |
|                                    | ちょうどよい        | 9   | 47% |
|                                    | 少ない           | 10  | 53% |
|                                    | わからない         | 0   | 0%  |
| B<br>十分な日本語運用能力を備えている教師            | 4分の3以上        | 7   | 39% |
|                                    | 2分の1程度        | 8   | 44% |
|                                    | 4分の1以下        | 3   | 17% |
|                                    | わからない         | 0   | 0%  |
| C<br>十分な日本語教授の知識・技術を備えている教師        | 4分の3以上        | 5   | 28% |
|                                    | 2分の1程度        | 9   | 50% |
|                                    | 4分の1以下        | 4   | 22% |
|                                    | わからない         | 0   | 0%  |
| D<br>日本語教材、教授法に関して積極的に情報収集を行っている教師 | 4分の3以上        | 6   | 33% |
|                                    | 2分の1程度        | 8   | 44% |
|                                    | 4分の1以下        | 4   | 22% |
|                                    | わからない         | 0   | 0%  |
| E<br>日本の文化・社会に関して積極的に情報収集を行っている教師  | 4分の3以上        | 9   | 50% |
|                                    | 2分の1程度        | 5   | 28% |
|                                    | 4分の1以下        | 4   | 22% |
|                                    | わからない         | 0   | 0%  |
| F<br>学習者数に対して日本語教材の数               | 十分である         | 3   | 16% |
|                                    | 概ね揃っている       | 2   | 11% |
|                                    | 不足している        | 13  | 68% |
|                                    | わからない         | 1   | 5%  |
| G<br>現在使っている教材は学習者に合っているか          | 非常に合っている      | 1   | 5%  |
|                                    | どちらかといえば合っている | 15  | 79% |
|                                    | 不足している        | 2   | 11% |
|                                    | わからない         | 1   | 5%  |
| H<br>現在使っている教材は教える内容・目的の面で適切か      | 適切である         | 1   | 5%  |
|                                    | どちらとも言えない     | 15  | 79% |
|                                    | 適切ではない        | 2   | 11% |
|                                    | わからない         | 1   | 5%  |
| I<br>施設(建物・教室)の状況                  | よい            | 4   | 21% |
|                                    | 現状で支障はない      | 5   | 26% |
|                                    | やや支障がある       | 10  | 53% |
|                                    | わからない         | 0   | 0%  |
| J<br>日本語教育設備、機器の状況                 | よい            | 4   | 21% |
|                                    | 現状で支障はない      | 4   | 21% |
|                                    | やや支障がある       | 11  | 58% |
|                                    | わからない         | 0   | 0%  |
| K<br>積極的に授業に取り組む学習者                | 4分の3以上        | 16  | 84% |
|                                    | 2分の1程度        | 2   | 11% |
|                                    | 4分の1以下        | 1   | 5%  |
|                                    | わからない         | 0   | 0%  |

※50%以上 、30%~49%  (無回答を除く)

## 3.2) 機関情報

### 3.2.1) ペルー日系人協会

**西語名:** Asociación Peruano Japonesa

**住所:** 日秘文化会館 (Centro Cultural Peruano Japonés)

Av. Gregorio Escobedo 803, Residencial San Felipe, Jesús María Lima 11

**電話:** +51-1-518 7450 / 518 7500

**メール:** idiomas@apj.org.pe (日本語普及部)

**サイト:** www.apj.org.pe

**概要:** ペルー日系人協会(以下、APJ)は、JF にほんごネットワーク (通称:さくらネットワーク)のメンバーになっている。地方にも、APJクスコなど15以上の「APJ」と呼ばれる日系人協会があり、リマのAPJともネットワークがあるが、それぞれ独立採算制をとっており、リマのAPJと本部支部の関係にはない(以後、当調査報告書で使うAPJはリマのペルー日系人協会を指す)。

APJには、日本語に関係する部署が「日本語普及部<sup>67</sup>」と「教育部<sup>68</sup>日本語課」の2つあり、教師研修(日本語専門家養成事業を含む)、教師養成講座、日本語能力試験、弁論大会など日本語教育事業を実施しているのは日本語普及部である。教育部日本語課は、APJが提供しているカルチャーコースの中にある日本語講座を運営している。

APJ日本語普及部は、ペルー国内、延いては南米各国へ日本語を広く普及することを目的として活動している。その一環として、南米スペイン語圏の日本語教育ネットワーク構築を目的に、2015年9月に、南米スペイン語圏8か国の日本語教育機関の代表者をペルーに招へいし、南米会議を独自に開催している。同会議開催に際し、APJは各国からの参加者への連絡・招へい、渡航費用および滞在費についてすべてAPJが捻出しており、南米スペイン語圏の日本語教育ネットワーク形成および現状改善のための意志力、組織力、資金力を兼ね備えた団体であると言える。なお、2016年には、JFのさくらネットワーク助成を利用し、第2回の連絡会議を開催している。

また、2014年から2016年1月までの約2年間、日本語教師の社会的地位及び専門性の向上、また国内における日本語教育の認知度を上げることを目的に、サンマルコス大学と連携し、ペルーで初めて日本語専門家養成事業を実施した。サンパウロ大学で実施された専門講座をモデルとし、受講生は2年間で720時間の講義を受け、修了時にはサンマルコス大学から認定証が授与された。同事業はさくらネットワーク事業の一環で、FJSPの専門家・現地講師が日本語教授法に関する科目約100時間を担当した。また、日本語学や論文指導はサンパウロ大学の松原礼子准教授とブラジリア大学の向井裕樹准教授が担当している。

現在、JICA日系社会シニアボランティアが一人、日本語普及部に派遣されており、養成講座や教育部日本語課の日本語講座のカリキュラム改訂に取り組んでいる。同講座の学習者数は560人(2012年JF機関調査)。

<sup>67</sup> Departamento de Difusión del Idioma Japonés

<sup>68</sup> Departamento de Educación



### 3.2.2) ラ・ウニオン校

西語名: Colegio La Unión  
 住所: Avenida Manuel Cipriano Dulanto 1950, Pueblo Libre  
 電話: +51-1-461-7930  
 メール: colegio@launion.edu.pe  
 サイト: www.launion.edu.pe

概要: 1971年創立。日系の日本語学校であったものが私立学校として認可された学校。2015年には国際バカロレア (IB) 認定校にもなっている。また、ウマラ前大統領の出身校であることもあり、有名私立校の1つとなっている。ペルー最大の日本語学習者数1,173人 (うち非日系が6割)、教師数12人 (うち2人が日本語母語話者) を抱える。2016年のさくらネットワークメンバー拡充で、メンバーになっている。

学習者 (初等) の発達段階、言語使用の実態に合った教科書 (CEFR準拠) を作成中。2015年10月~12月には同校から淀先生を含む2人の教師がJF訪日研修の一つである海外日本語教師上級研修に参加しており、小学5年生対象の教科書作成に取り組んでいる。中等教育段階の学習者には『まるごと』を使っている。

### 3.3) 教師会

|                 |                                                                          |
|-----------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 機関名<br>(原語/日本語) | Asociación de Profesores de Idioma Japones del Perú<br>ペルー日本語教師会         |
| 住所              | Av. Gregorio Escobedo 803, Jesús María, Lima (日秘文化会館内)                   |
| 連絡              | TEL: +51-1-518-7500, 7450<br>E-mail: nihongokyoshikai@gmail.com          |
| 設立/会員数          | 1978年/34人                                                                |
| 活動              | 年4回の会議 (例会、総会他)、親睦会、日本語教師短期養成講座<br>www.apj.org.pe/kyoshikai/ (2008年度の情報) |
| 組織概要            | 会長 (任期1年)、副会長、書記、会計。年会費あり。                                               |

当初日本語教師の勉強会であったものが、1978年に日本語教師会となった。10年ほど前までは活動が活発で、日本語能力試験や弁論大会を実施していたが、現在それらの活動はAPJ日本語普及部主導で実施されている。

### 3.4) 教師資格・教師養成

#### 3.4.1) 教師資格

各機関で資格・条件を設定しているところもあるが、日本語教師としての資格要件は特にない。

### 3.4.2) 教師養成

#### ▶ 日本語教師養成講座1年コース

|       |                                                                                                  |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 目的    | 日本語教師としての基礎知識を習得し、修了後、すぐに初級レベルを教えることができる教師を養成する。                                                 |
| 対象    | 基本的に日本語教師を志している人<br>(日本語教授経験のある人がブラッシュアップとして受講も可)                                                |
| 応募条件  | 基本的には、母語話者またはN1合格者<br>国籍不問、年齢は20歳以上                                                              |
| 内容    | 日本語教育現場で初級レベルの学習者を教えるための理論、技術、実習。<br>日本語教授法・日本語教育文法・文字、語彙・音声 その他                                 |
| 期間    | 例) 2015年11月～2016年9月(220時間)<br>平日講座 150時間<br>日曜日集中講座 8時間<br>模擬授業(指導) 45時間<br>授業見学 9時間<br>文化活動 8時間 |
| 定員    | 4人修了2人参加証(2016年9月)                                                                               |
| 費用    | 約3,000ソル(約USD880)                                                                                |
| 問い合わせ | ペルー日系人協会日本語普及部(☎3-2-1)                                                                           |

#### ▶ 日本語教師養成講座1年コース

|       |                            |
|-------|----------------------------|
| 目的    | 日本語教師の日本語能力アップと教授法の指導      |
| 対象    | 地方で教えている日本語教師(初級、初中級レベル)   |
| 応募条件  | 応募時点で地方の日本語教育機関で教えている日本語教師 |
| 内容    | 日本語の初級・中級文法                |
| 期間    | 4月から2月                     |
| 受講者数  | 6名(2016年11月現在)             |
| 費用    | 無料                         |
| 後援    | JICAペルー事務所                 |
| 問い合わせ | ペルー日系人協会日本語普及部(☎3-2-1)     |

上記の講座以外には、不定期開催の日本語教師短期養成講座(ペルー日本語教師会(☎3-3)主催)や、ベテラン教師が研修やセミナーまた経験から得た知識をもとに若手教師に指導したりしている。

### 3.5) 研修・助成利用実績

#### 3.5.1) 教師対象

南米の日本語教師が利用できる教師研修には、JFの公募プログラムにある海外日本語教師研修、CBLJが行っている汎米研修がある(☎第一部3-2, 3-3)。また、日系人であれば、JICAの日系研修も利用可能である。

▶ JF訪日研修参加実績(1989年～2016年)

| 年    | 研修      | 所属(申請当時)         |
|------|---------|------------------|
| 1989 | 長期研修    | リベルタ州日秘文化協会      |
| 1990 | 短期研修    | ラ・ウニオン校          |
| 1990 | 在外邦人研修  | ラ・ビクトリア学校        |
| 1991 | 短期研修    | 国立トルヒーヨ大学        |
| 1991 | 短期研修    | ラ・ウニオン協会         |
| 1991 | 短期研修    | ラ・ビクトリア校         |
| 1991 | 長期研修    | リベルタ州日秘文化協会      |
| 1992 | 在外邦人研修  | 葎文化協会 幼少年部       |
| 1993 | 長期研修    | ペルー日系人協会 日本語普及部  |
| 1994 | 短期研修    | ラ・ウニオン協会         |
| 1994 | 長期研修    | 国立トルヒーヨ大学        |
| 1994 | 在外邦人研修  | いちご文化協会          |
| 1995 | 短期研修    | 青嵐塾・日本語          |
| 1995 | 在外邦人研修  | いちご文化協会 日本語教室    |
| 1996 | 長期研修    | ペルー日系人協会         |
| 1997 | 長期研修    | ラ・ビクトリア校         |
| 1998 | 長期研修    | ホセ・ガルベス校         |
| 1999 | 短期研修    | ラ・ウニオン校          |
| 2000 | 短期研修    | ラ・ウニオン校          |
| 2000 | 長期研修    | ペルー日系人協会         |
| 2001 | 在外邦人研修  | ペルー日系人協会日本語普及部   |
| 2002 | 短期研修    | ラ・ウニオン校          |
| 2002 | 短期研修    | 国立トルヒーヨ大学        |
| 2003 | 短期研修    | ラ・ビクトリア校         |
| 2003 | 短期研修    | ラ・ウニオン校          |
| 2003 | 在外邦人研修  | いちご文化協会          |
| 2006 | 短期研修    | ペルー日系人協会日本語教室    |
| 2007 | 在外邦人研修  | いちご文化協会          |
| 2008 | 修士プログラム | ペルー日系人協会(日本語講座部) |
| 2009 | 短期研修    | 国立トルヒーヨ大学        |
| 2012 | 日系人研修   | いちご文化協会          |
| 2013 | 短期研修    | ペルー日系人協会         |
| 2014 | 日系人研修   | ラ・ウニオン校          |
| 2014 | 日系人研修   | 日系人協会            |
| 2015 | 日系人研修   | ペルー日系人協会         |
| 2015 | 日系人研修   | 野口英世学校           |
| 2015 | 上級研修    | ラ・ウニオン校          |
| 2015 | 上級研修    | ラ・ウニオン校          |
| 2015 | 長期研修    | グループがんばろう        |
| 2016 | 長期研修    | 愛気文化センター         |

※ 在外邦人研修は現在行われていない。日系人研修は2012年度から開始。

2008年に修士プログラムに参加したラミレス・ハラ、ホセ・アントニオ氏（8期生）の修士論文テーマは「学習者が話せるようになる授業への改善の試みーペルー日系人協会日本語・語学センターの初級を例にー」。同氏は2015年にAPJがサンマルコス大学と連携して行った日本語専門家養成講座で講師を務めている。

### ▶ CBLJ汎米日本語教師合同研修会参加実績

| 年度   | 人数  | 機関                              |
|------|-----|---------------------------------|
| 2004 | 2人  | 野口英世学校                          |
| 2005 | 2人  | ペルー日系人協会                        |
| 2006 | 1人  | ペルー日系人協会                        |
| 2007 | 2人  | ペルー沖縄県人会、ペルー日系人協会               |
| 2008 | 2人  | いちご文化協会、ラ・ビクトリア校                |
| 2009 | 3人  | いちご文化協会、ペルー日系人協会                |
| 2010 | 1人  | ラ・ウニオン校                         |
| 2011 | 4人  | いちご文化協会、ペルー日系人協会、ラ・ビクトリア校       |
| 2012 | 2人  | ラ・ビクトリア校、ラ・ウニオン校                |
| 2013 | 3人  | ラ・ウニオン校、ラ・ビクトリア校                |
| 2014 | 3人  | いちご文化協会、ペルー日系人協会、ラ・ウニオン校        |
| 2015 | 2人  | ナシオナル・ホルヘ・バサドレ大学語学センター、ラ・ビクトリア校 |
| 2016 | 3人  | ラ・ウニオン校、ペルー日系人協会                |
| 合計   | 30人 |                                 |

その他に日系人の日本語教師が利用できる研修にJICAの日系研修がある

[www.jica.go.jp/partner/nikkei/index.html](http://www.jica.go.jp/partner/nikkei/index.html)

### 3.5.2) 機関支援(助成)

2009年度まで海外における日本語教育の分野には「海外日本語講座現地講師謝金助成」、「海外日本語弁論大会助成」、「海外日本語教育ネットワーク形成助成」、「日本語教材寄贈」があったが、2010年度よりこれまでのプログラムを統合した新しい公募助成プログラム「日本語普及活動助成」が実施されるようになった。また、同助成は2017年度より名称が「海外日本語教育機関支援(助成)」に改められた。<sup>69</sup>

| 年度   | 機関                       | 助成              |
|------|--------------------------|-----------------|
| 2009 | いちご文化協会                  | 海外日本語講座現地講師謝金助成 |
| 2009 | ラ・ウニオン総合学校               | 海外日本語講座現地講師謝金助成 |
| 2007 | ヒデヨ・ノグチ校                 | 日本語教材寄贈         |
| 2007 | ラ・ウニオン総合学校 日本文化部         | 日本語教材寄贈         |
| 2007 | いちご文化協会 日本語教室            | 日本語教材寄贈         |
| 2007 | ペルー日系人協会日本語普及部           | 日本語教材寄贈         |
| 2007 | ラ・ビクトリア日系人学校             | 日本語教材寄贈         |
| 2007 | ワンカヨ日系人協会                | 日本語教材寄贈         |
| 2007 | クスコ日系人協会 言語センター          | 日本語教材寄贈         |
| 2008 | ペルー沖縄県人会                 | 日本語教材寄贈         |
| 2008 | ホセ・ガルベス・エグスキサ私立男女学校 日本語科 | 日本語教材寄贈         |
| 2008 | ヒデヨ・ノグチ校 日本語学部           | 日本語教材寄贈         |
| 2009 | ラ・ウニオン総合学校               | 日本語教材寄贈         |
| 2009 | いちご文化協会 日本語教室            | 日本語教材寄贈         |
| 2009 | ラ・ウニオン協会 日本語アカデミー        | 日本語教材寄贈         |
| 2009 | ヒデヨ・ノグチ校                 | 日本語教材寄贈         |
| 2010 | ペルー日系人協会                 | 学習者奨励活動助成       |
| 2011 | ペルー日系人協会                 | 学習者奨励活動         |
| 2012 | ペルー日系人協会                 | 学習者奨励活動         |
| 2013 | ペルー日系人協会                 | 学習者奨励活動         |
| 2014 | ペルー日系人協会                 | 学習者奨励活動助成       |
| 2015 | ペルー日系人協会                 | 学習者奨励活動助成       |

### 3.5.3) 学習者対象

日系非日系を問わず利用できるものには、JF本部事業の「日本語学習者訪日研修」、FJSP主催の「南米中等教育生徒サンパウロ研修(以下、サンパウロ研修)」がある。サンパウロ研修の対象者は、公教育の日本語講座で2年以上の日本語学習経験がある13歳から18歳までの学習者が対象となっている。

日系人であれば、JICAの日系次世代育成研修<sup>70</sup>、CBLJ主催のふれあいセミナー<sup>71</sup>(費用は自己負担)などがある。CBLJによると、過去に同セミナーに3人<sup>72</sup>の参加実績があるとのこと。

<sup>69</sup> 参考: 「平成29年度公募プログラムガイドライン」 [www.jpf.go.jp/j/program/dl/guidelines\\_j\\_2017.pdf](http://www.jpf.go.jp/j/program/dl/guidelines_j_2017.pdf)

<sup>70</sup> 詳しくは各国JICA事務所、支所に問い合わせください。

<sup>71</sup> 詳しくはCBLJのサイト([www.cblj.org.br](http://www.cblj.org.br))を参照。

<sup>72</sup> CBLJ情報(2016年5月)

## ▶ JF日本語学習者訪日研修(各国成績優秀者)

日本語を学習し、優秀な成績を修めている学習者を2週間日本に招へいし、講義や研修旅行を通じて、日本語および日本文化・社会への理解を深める機会を提供するプログラム。以下は参加実績。

| 年度   | 人数 | 所属先(申請当時)                       |
|------|----|---------------------------------|
| 1998 | 2人 | カトリカ大学、リマ大学                     |
| 1999 | 2人 | 国立テレビ番組制作研究所、プブリカシオネス・クレアティバス   |
| 2000 | 2人 | アラス・ペルアナス大学、不明                  |
| 2001 | 2人 | カトリカ大学、不明                       |
| 2002 | 1人 | 日系人協会統合クラス                      |
| 2003 | 0人 |                                 |
| 2004 | 1人 | 国立ラ・モリーナ農業大学                    |
| 2005 | 1人 | 不明                              |
| 2006 | 1人 | サンマルコス大学                        |
| 2007 | 1人 | パシフィコ大学経営学部                     |
| 2008 | 1人 | カトリカ大学MOAインターナショナルアバココンピュータセンター |
| 2009 | 1人 | 不明                              |
| 2010 | 1人 | カトリカ大学                          |
| 2011 | 1人 | ピウラ大学                           |
| 2012 | 1人 | 国立ラ・モリーナ大学                      |
| 2013 | 1人 | リカルド・パルマ大学                      |
| 2014 | 1人 | 歯医者CENTRO DE SALUD "EL BOSQUE"  |
| 2015 | 1人 | ペルー国立工科大学                       |

※ 参加者は、国際交流基金海外拠点または在外公館の推薦にもとづき、関西国際センターが決定する。従来、大使館が実施する筆記試験と面接により推薦者を選んでいたが、2016年から、前年の日本語弁論大会において最優秀賞受賞者が優先的に同研修に参加できる選抜方法に変更された。

## ▶ 南米中等教育生徒サンパウロ研修

国内の中等日本語教育機関のうち、同研修の対象校は1～4の4校。研修の連絡、参加者の選抜はAPJ日本語普及部が行っている。

| 機関名                    | 2012年 | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 |
|------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1 ラ・ウニオン校              | 1人    | 1人    |       | 1人    | 1人    |
| 2 ラ・ビクトリア校             |       | 1人    |       |       |       |
| 3 ヒデヨ・ノグチ校             |       |       | 1人    |       |       |
| 4 ホセ・ガルベス校             |       |       |       |       |       |
| APJ日本語講座 <sup>73</sup> | 1人    |       |       |       |       |

<sup>73</sup> その他の教育機関のため2013年から対象外。

### 3.6) 出講・派遣実績

#### 3.6.1) JF専門家

##### ▶ 出講実績

| 年度   | 訪問先／研修会名       | テーマ／内容                                                                        |
|------|----------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 1993 | 日本語教育巡回セミナー    | 日本語への馴染ませ方<br>会話指導の実際<br>子供が使うべき語彙の選択<br>コミュニケーションアプローチの理論と実例<br>対照研究－その分野と方法 |
| 1994 | 日本語教育巡回セミナー    | 視聴覚教材を使った日本語教育<br>年少者の日本語教育について<br>音声<br>教室活動の基礎                              |
| 1995 | 日本語教育巡回セミナー    | 成人に対する作文指導<br>学齢児童に対する日本語教育<br>音声教育の方法を考える<br>日本語の文の構造                        |
| 1996 | 日本語教育巡回セミナー    | 日本語教育の為の文法指導<br>日本語教育における文字指導(漢字中心に)                                          |
| 1998 | 日本語教育巡回セミナー    | 聴解指導の進め方<br>教室活動の中の文法                                                         |
| 1999 | 日本語教育巡回セミナー    | 聴解指導の役割と授業の実際<br>学習者を惹き付ける授業とその舞台裏                                            |
| 2000 | 日本語教育巡回セミナー    | 会話の定着を目的とした教材の利用法<br>初等／中等教育における学習者への動機づけ                                     |
| 2001 | 日本語教育巡回セミナー    | 日本語教育における動機付け<br>会話・コミュニケーション練習の実践例(オーストラリアの事例)                               |
| 2003 | 日本語教育巡回セミナー    | 協働学習<br>カリキュラム・教室活動<br>読解<br>授業でのポルトガル語の使用                                    |
| 2012 | 日本語教育セミナー      | 10年後20年後も繁栄する日本語学校<br>Can-doって何だ？<br>読めるって何だ？<br>聞けるって何だ？                     |
| 2013 | 巡回セミナー(リマ、クスコ) | 心と心の日本語教育(待遇表現、社会語用論と文化の扱い方)<br>考える言葉を育てる<br>会話指導の基本<br>観光ガイドのための初級日本語の教え方    |
| 2015 | 日本語専門家養成事業     | 日本語教授法(教授理論、教材論、『まるごと』)                                                       |



|      |            |                                                   |
|------|------------|---------------------------------------------------|
| 2015 | 日本語専門家養成事業 | 教師の役割とコースデザイン<br>初級を教える<br>音声<br>文法<br>文字語彙<br>評価 |
| 2015 | 日本語専門家養成事業 | 日本語教授法(話す、聞くを教える)<br>年少者向け指導法                     |
| 2016 | 日本語専門家養成事業 | 読むことを教える<br>書くことを教える<br>教え方を改善する                  |
| 2016 | 日本語専門家養成事業 | JF日本語教育スタンダード<br>中・上級を教える<br>日本事情・日本文化を教える        |

### 3.6.2) JICAボランティア<sup>74</sup>

1981年から1992年、2003年から2016年までにJICAから派遣された日本語教育ボランティアは総計19人。

#### 【 青年海外協力隊・シニア海外ボランティア 】

|         | 配属先            | 人数 |
|---------|----------------|----|
| 中等教育    | ラ・ウニオン校        | 3人 |
|         | ラ・ビクトリア校       | 2人 |
| 日系日本語学校 | ペルー日系人協会日本語普及部 | 8人 |
|         | ペルー日系人協会クスコ    | 4人 |
|         | ペルー日系人協会ワラル    | 1人 |

#### 【 日系社会青年ボランティア・日系社会シニアボランティア 】

|         | 配属先         | 人数 |
|---------|-------------|----|
| 日系日本語学校 | リベルタ州日秘文化会館 | 1人 |

#### 【 2017年3月の派遣状況 】

| 派遣先         | ボランティア      | 期間              |
|-------------|-------------|-----------------|
| APJ日本語普及部   | シニア海外ボランティア | 2015年9月~2017年9月 |
| ペルー日系人協会クスコ | 青年海外協力隊     | 2017年1月~2019年1月 |

<sup>74</sup> JICAナレッジサイト「国別派遣概況【中南米】※外部公開用※」



## 4. 行動計画

### 4.1) 現状認識

#### 【地理的状況】

日本の約3.4倍の広さがあり、2016年のペルー日系人協会（以下、APJ）の調査によると、日本語教育機関がもっとも集中しているのはリマである。その他にもリマ県内のワラル（439人）や隣接するイカ（709人）、ワンカヨ（216人）、さらにクスコ（202名）にも学習者数規模が中程度の都市がある。その他の地方に点在する日本語教育の規模は小さい（☞2.日本語教育機関分布状況）。

#### 【日本語教育の沿革】

ペルーは南米の中でもっとも計画移住開始が早く、ブラジルより9年早い1899年に始まっている。移住者子弟への日本語教育が始まりで、当初は継承日本語教育が行われていた。第二次世界大戦中に多くの学校が閉校したこと、また日系人が敵性外国人として収容されたこともあり、継承日本語教育は一旦途絶えた。そのため、主流は外国語としての日本語教育である。APJリマでは、課題遂行を重視した『まるごと 日本のことばと文化』（以下、『まるごと』）の導入が検討されている一方、地方都市のクスコでは、全機関で『まるごと』が導入されている。2008年のリーマンショック以降日本からペルーに戻って来る人が増えているが、戻ってきた家族の子弟（帰国生）への日本語教育実態は正確に把握されておらず、適切に対応できていないのが現状である（第一部1-1＜参考1＞）。

#### 【日本語教育の全体的状況】

2015年のJF日本語教育機関調査では、機関数19、教師数92、学習者数4,074で、2012年までほぼ横ばいだった学習者数が2015年に増加（約1.4倍）に転じている。初中等教育段階の学習者数が多く、学習者数全体の約60%を占める。南米スペイン語圏では日本語教育規模がもっとも大きく、すべての教育段階で日本語が教えられている。ただし、高等教育機関の日本語教育規模は非常に小さく、公開講座のみ。日本研究を専門的に行っている機関は、カトリック大学の東洋研究所のみである。2012年と比べるとすべての教育段階において学習者数が増加している（☞3-2）。JLPT受験者数には大きな変化は見られない（☞3-1-4）。

#### 【日本語学習の目的・理由】

目的・理由は、日本語そのものへの興味やマンガ・アニメなどのポップカルチャーの割合が高い。計画移住のあった南米のその他の国と比べると、母語または継承語を日本語学習の目的とする割合は低い（☞第一部5、3-1-5）。戦時中に日本語教育が一旦途絶えたことなどが原因であらうと考えられる。

#### 【日本語教育実施状況】

その他の南米スペイン語圏の国と比べると、養成講座や教師研修の機会もあり、教師のブラッシュアップの機会もあるが、教師の日本語運用能力、教授知識・技術が十分であるとは意識されていない。また、教材・教授法に関して積極的に情報収集を行っている教師もあまり多くないと考えられている（☞3-1-6）。研修等の機会はあるが、参加する教師が限定的であると推察する。また、APJからは、JF本部に対して、教材開発支援や中級以上を指導できる教師養成のために専門家を派遣してほしいなど、支援強化の要請があがっている。

**【中核機関／主要機関】**

JFにほんごネットワーク(通称さくらネットワーク)のメンバーであるAPJを中核機関とする。(☞3-2-1)。APJ日本語普及部は、教師研修、教師養成講座、日本語専門家養成事業(2014年～2016年)、JLPT、弁論大会など日本語教育に関わる諸事業を実施している。また、2015年と2016年には、南米各国とのネットワーク構築強化および各国が抱える課題や情報共有を目的に、南米スペイン語圏各国の日本語教育に携わる代表者を8か国から招へいし、連絡会議を開催している。

**【ネットワーク状況】**

日本での研修(JF訪日研修、JICAの研修)やCBLJ主催の汎米研修と4か国代表者会議を通して、日本やブラジル、また日系社会のあるアルゼンチン、パラグアイ、ボリビアとのネットワークが構築されている。2015年には、APJ独自のネットワークを活用し、南米会議を実施、翌年2016年には同様の会議を、JF助成(さくらネットワーク事業)を利用して第2回を実施しており、南米スペイン語圏の中では中心的な役割を担っている。

**【教師養成、教師研修】**

APJが実施している、教師養成講座、オンライン日本語講座、日本語専門家養成事業などにより、その他の南米諸国に比べると教師研修の機会に恵まれている(☞3-4-2)。JF訪日研修やJF助成、ブラジルで行われている汎米研修は積極的に利用されている(☞3-5-1, 3-5-2)。

**【公的派遣実績】**

1996年から2016年の間に総計16回、JF専門家が出講。特に2015年、2016年は日本語専門家養成事業支援のため、計5回、6名が出講した(☞3-6-1)。また、1981年から1992年、2003年から2016年までにJICAから派遣された日本語教育ボランティアは総計19人。主にシニア海外ボランティア、青年海外協力隊が派遣されている(☞3-6-2)。現在派遣中のJICAボランティアは2名。

**【特記事項(最新動向など)】**

APJリマの日本語講座で『まるごと』が導入されることになった。それに伴い、『まるごと』の現地出版に向けた動きが出てきた。現在、メキシコ日本文化センター(以下、MC)と連携のもと、現地出版に向けた手続きを進めている。

## 4.2) 方針と具体策

### (1) 南米スペイン語圏の日本語教育環境整備を図る。

- イ) APJが拠点となり、ペルーが南米スペイン語圏における日本語普及において更なる主導的役割を果たすとともに、ペルーにおける日本語教育推進の効果を各国・地域に波及させていくことを目指す。JF・FJSP・MCは、関係各機関と連携のもと、必要かつ可能な支援を行う。また、大使館がその調整役を果たす。APJが、MC・FJSPと連携のもと、『まるごと』（スペイン語版）の現地出版をする。
- ロ) 当面、APJが、大使館・JICA・FJSP・MCと連携のもと、南米スペイン語圏の日本語教育ネットワーク（以下、南米ネットワーク）の中で主導的な役割を果たし、南米スペイン語圏日本語教育連絡会議を開催する。今後、南米ネットワークの組織を整備するとともに、将来的に各国が持ち回りで開催ができる体制を整える。
- ハ) APJ・大使館・JICA・FJSP・MCが連携のもと、高等教育機関における知日家育成（日本研究、日本語教育）に向けた将来像を協議するとともに、有力大学を中心として高等教育機関における日本語教育導入の可能性を探る。

### (2) 日本語運用力および教授知識・技術のブラッシュアップを図ることで、日本語教育の質向上を目指す。

- イ) APJが、教師の現状を把握するとともに、研修やセミナーなど、課題解決に向けた取り組みを行う。
- ロ) 日本語教師および機関が、APJ主催の研修やセミナー、CBLJ主催の汎米研修、JF訪日研修を積極的に利用し、教授力向上に努める。
- ハ) FJSP・MCは、APJからの要請に応える形で、『まるごと』の導入支援や教師研修会への出講、その他の必要かつ可能な支援を行う。

### (3) 初中等教育段階の日本語教育整備を図る。

- イ) APJが、帰国生を受け入れている初中等教育機関と協力し、帰国生の実態調査を通して現状を把握し、他国と情報共有をしながら、課題解決に向けた対応策を示す（日本語カリキュラムの整備など）。
- ロ) ラ・ウニオン校が、引き続き年少者（初等）対象の教材の作成を行う。
- ハ) JFは、大使館・JICAと連携のもと、必要かつ可能な支援を行う。

### (4) 日本語学習者の裾野拡大を図るとともに、その他の教育機関における日本語学習者数の維持・拡大に努める。

- イ) APJが、大使館・JICAと連携のもと、引き続き日本文化普及事業および日本語教育関連事業を積極的に行う。
- ロ) JFは、APJ・大使館・JICAと連携のもと、JF開発のオンラインコンテンツに関する情報提供や、助言等を行う。